

事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	庁舎管理事務			事業コード	19
所属コード	014000	課等名	総務部 管財課	係名	管理係
課長名	高橋克匡	担当者名	一盃森 悟	内線番号	2427
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	信頼される質の高い行政	コード	8
	施策	健全な財政運営の実現	コード	1
	基本事業	公有財産の適正管理	コード	3
予算費目名	一般会計 2 款 1 項 5 目 庁舎管理事務 (001-01)			
特記事項				
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	年度	
根拠法令等	盛岡市庁舎管理規則			

(2) 事務事業の概要

本庁舎、愛宕町分庁舎、若園町分庁舎、肴町分庁舎及び内丸分庁舎に係る庁舎管理事務

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 37 年 10 月に現本庁舎本館が竣工して以来、その維持管理のため開始され、昭和 49 年 3 月に愛宕町分庁舎、昭和 55 年 3 月に若園町分庁舎、昭和 59 年 3 月に本庁舎別館がそれぞれ竣工し、範囲対象を拡大させている。また、平成 4 年 4 月に旧都南村、平成 18 年 1 月に旧玉山村との合併により、それぞれの庁舎を都南分庁舎、玉山総合事務所とし、庁舎機能の分散化により各種行政需要に対応してきた。

平成 20 年 4 月からは、旧保健センターを肴町分庁舎として活用している。また、平成 24 年 4 月からは農林中央金庫旧盛岡支店を取得し、内丸分庁舎としている。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

本庁舎本館は築 50 年が経過し、耐震構造等に問題があることから 22 年度から 4 箇年計画で本庁舎耐震補強・改修工事を実施し完了した。また、平成 24 年度からは配管等改修工事を 6 箇年計画で実施している。

本庁舎別館及び若園町分庁舎のエレベーターは設置から 30 年が経過しており耐用年数を過ぎていること、立体駐車場は老朽化及び規格が現在の車種に適合していないことにより早期の改修に迫られている。

その他庁舎施設・設備の老朽化が著しく、天井の崩落、雨漏りの多発等不測の事態が頻発し職員の執務に支障をきたしている。

なお、本庁舎利用にも限界があることから、22 年度から市庁舎整備基金を設置し、計画的な積立を行っている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

本庁舎・若園町分庁舎・愛宕町分庁舎・肴町分庁舎・内丸分庁舎職員及び来庁者

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	27年度 見込み
A 本庁舎及び分庁舎(延べ床面積)	m ²	20751.39	23400.65	23400.65	23400.65	23400.65
B 庁舎内職員数(本庁舎, 若園分庁舎, 肴町分庁舎・愛宕町分庁舎・内丸分庁舎)	人	850	850	850	850	850
C 市民の総数(住民基本台帳+外国人登録人数)	人	294,068	294,068	294,068	299,585	299,585

(3) 25年度に実施した主な活動・手順

- ・庁舎の設備保守・清掃・警備等の業務を委託により実施した。
- ・破損箇所等の速やかな修繕を実施した。
- ・本庁舎本館耐震補強・改修工事(7階・8階)及び配管改修工事を実施した。

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	27年度 目標値
A 庁舎管理関係委託業務数	件	41	51	51	49	45
B 庁舎営繕・修繕実施件数	件	57	63	63	57	57
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

施設の適正な管理及び設備の拡充により、安全で快適な執務環境を形成し、もって行政効率の向上及び市民の利便性を図る。

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	27年度 目標値
A 職員1名当りの執務室面積(執務室面積/職員数)	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	m ²	9.29	9.58	9.58	9.58	10.00
B 執務室の空調設備設置率(設置済面積/執務室面積)	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	53.05	64.38	66.00	66.00	80.00
C 施設の不具合による重大事故発生件数	<input type="checkbox"/> 上げる <input checked="" type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	件	0	0	0	1	0

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	①国	千円	0	0	1,116	2,604
	②県	千円	210	0	76,500	1,522
	③地方債	千円	88,500	92,400	28,100	23,300
	④一般財源	千円	16,480	679,040	803,003	768,933
	⑤その他()	千円	464,037	11,499	15,630	14,696
	A 小計 ①～⑤	千円	569,227	782,939	924,349	811,055
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	22,500	22,500	22,500	22,500
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	90,000	90,000	90,000	90,000
計	トータルコスト A+B	千円	659,227	872,939	1,014,349	901,055

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

- ① 施策体系との整合性
- ② 市の関与の妥当性
- ③ 対象の妥当性
- ④ 廃止・休止の影響

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

老朽化した庁舎設備等の計画的修繕実施により、事故発生の可能性を下げる。

執務環境が劣悪な若園町分庁舎の空調設備を整備する。

実施済みの本庁舎本館耐震補強・改修工事及び実施中の配管等改修工事（6箇年）により庁舎の延命を図る。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

(4) 効率性評価

各業務について見直しや統合、委託化を進めていくことでより経費削減を図ることが出来る。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

各庁舎の維持管理費に必要な委託業務の効率化を図る。また、必要な修繕を実施する。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

各庁舎の修繕に多額の費用がかかる。各庁舎の計画的な修繕を検討する。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

外部委託を活用しながら庁舎管理を行い、修繕・補修等により執務環境の維持に努めた。今後についても、業務の見直しや効率的な委託方法を検討し、経費の節減を図る必要がある。

また、本庁舎本館耐震補強・改修工事（4箇年計画）は、25年度で完了したが、本庁舎配管改修等工事は、6箇年計画の2年目であることから、次年度以降も継続し、本庁舎の延命を図っていく必要がある。

新庁舎整備については、多額の資金を必要とすることから、基金を設けて毎年度2億円ずつの積み立てを行っている状況にある。